

麻生渡名誉会長の逝去に関するお知らせ

2025年3月15日、麻生渡名誉会長が85歳で逝去されました。福岡県知事在任中に国連ハビタットの福岡への誘致にご尽力され、国連ハビタット福岡本部の礎を築かれました。さらに、当協会の名誉会長として、永年にわたり団体の発展のため多大なるご助力を賜りました。これまでのご厚情にあらためて心よりの感謝を申し上げ、ご冥福をお祈りいたします。

理事会・総会

2025年6月13日、第34回理事会および第25回総会を開催しました。役員選任をはじめ、2024年度事業・決算報告、2025年度事業計画・予算などが審議されました。役員選任では、元国連ハビタットバンコク事務所長の佐藤摩利子氏、福岡県企画・地域振興部国際局長の平野祥司氏が新たに理事に就任いたしました。新たな体制のもと、国連ハビタットとともに人々が安全で安心して暮らせる持続可能なまちづくりを展開していきます。

国連ハビタット福岡本部・プラットフォーム設立

国連ハビタット福岡本部が企業、大学などの連携強化に向け、新たに「アジア太平洋地域の「持続可能なまちづくり」のためのプラットフォーム」を立ち上げ、4月10日に東京、4月16日に福岡にて設立記念セミナーが開催されました。当協会は東京プラットフォームのパートナー団体になりました。産官学のそれぞれの強みを生かした協働によりアジア太平洋地域での持続可能なまちづくりを推進します。



ハビタット クイズ?!

デンマークのほとんどのコインはハートマーク(♥)が描かれています。その理由を次の①～④から選んでください。

- ① 愛にあふれる国を目指しているから
- ② 造幣局のミントマーク(鋳造印)だから
- ③ 国民の幸福度が世界一になった記念として
- ④ コインに描くシンボルを国民投票で決めたから



ご協力いただきありがとうございます

2024年12月1日～2025年5月31日
(敬称略・順不同)

みなさまのご支援ご協力により、多くの国と地域において、まちづくり事業を実施することができます。心から感謝申し上げます。

会費 中富貴仁、小林一、篠原大作、新関文彬、水上英佐子、清水雄二、中村幸子、濱口吉右衛門、三浦教子、原雄次郎、藤本貴也、中村勇、下村政裕、内田俊隆、鬼木誠、橋本久美子、ニール・クリガー、麻生渡、角田マリ、下津浦康裕、白澤和子、松尾新吾、若林陽介、山際則子、山本博子、富成倫子、寺嶋恵子、中村麻子、山本隆一、山本頼永、山村より子、新井てつお、塩川秀敏、浅見明子、宮田秀子、岡部晃子、大島政子、藤田毅、藤田美江子、橋本千晶、簗恵美子、丸井聰、鬼頭猛

賛助会員 日亜化成工業(株)、(学)中村産業学園、ステーキ将門、(株)エッチャードルディ、堤かなめ、品川篤子、竹崎勲、安藤久美子、久保庭啓一郎

ご寄附 SI-長崎ガーランド、鈴木裕美、中井禮子、樋口謙一郎、佐藤和恵、橋本久美子、田村光代、鎌滝たみ子、清水雄二、マクリ美幸、ニール・クリガー、三浦教子、兼平剛志、土屋嘉克、坂本春生、下津浦康裕、水口喜美子、野田泰子、新井てつお、渡邊きな子、中村勇、上山佳彦、大塚麻貴子、内田俊隆、富取善彦、山際則子、山本嘉彦、富成倫子、寺嶋恵子、山本隆一、原田義信、品川篤子、宮田秀子、丸井聰、朝妻幸雄、鬼頭猛、米澤豊、下村政裕、(株)新橋スタンプ商会、ソフトバンク(株)、大和ハウス(株)、(一財)ペターリピング、(一財)日本建築センター、(財)日本フランソロピー協会

マンスリーサポーター 大下悟、今村稔、岡田耕造、古庄弘美、下村政裕、篠原昭子、篠原大作、清水雄二、藤田美江子、美甘政門、三島康雄、山本博子、山本嘉彦、岡部正、橋本政和

切手・書き損じハガキ、外貨等 JSO、日本郵船(株)、(株)日本海洋科学、(一社)文化資源協会、太宰府天満宮、福岡県物産振興会、東京福岡県人会、福岡県東京事務所分室、日本コンテナ輸送(株)本店、(株)ジェーシービー、那覇空港ビルディング(株)、初山ひとみ、柿原礼子、眞野千里、河内千草、黒岩尚子、丹波佐子、森本由紀子、錦織薫、鈴木俊幸、川渕恵子、横山さくら、古坂春奈、所栄一、川崎涉、岬和美、河合友梨、浅井哲子、五十嵐加奈子、田路あつ子、村田直美、河合昌子、飛木直子、鈴木裕美、中井禮子、中村純子、五十嵐幸菜、山際則子、元木春伽、小野森人、ヒ野健一、牛山、三島康雄、今井一彦、小野純子、匿名の方々

ご協力いただいた方及び団体 国連ハビタット福岡本部、国連ハビタット福岡本部協力委員会、福岡県、東京福岡県人会、千代田区社会福祉協議会、ちよだボランティアセンター、国際協力機構(JICA)、長崎大学、SATREPS、エイズ孤児支援 NGO・PLAS、ワールド・ビジョン・ジャパン(株)EMA、(一財)CSO ネットワーク、(株)東急エージェンシー、朝日新聞with Planet、パナソニック・オペレーションエクセレンス(株)、(株)エチアールディー、重慶神社、木能実(wara no bag)、農事組合法人シャン・ドゥ・ミユリ、(一財)シルクセンター国際貿易観光会館、東京女子学館中学校男女共同参画センター、横浜南、東海大学附属相模高等学校、横浜国立大学、フェリス女学院大学、(株)VW、半蔵門駅前郵便局、(株)新橋スタンプ商会、トラベルクリエイターズ、エクスチェンジアーズ、インターパンク、(公社)日本フランソロピー協会、国際協力 NGO センター、ハビタット福岡市民の会、アジアの女性と子どもネットワーク、ボランティア・ハビタットフレンズの皆様

コイン仕分けにご協力いただいた企業・学校 (株)ジェーシービー、(株)電通、千代田区かがやき大学

募金箱設置にご協力いただいた企業など 成田国際空港(株)、(株)NAAリテリング、東京国際ターミナル(株)、北海道エアポート(株)新千歳空港事務所、中部国際空港(株)、関西国際空港(株)、福岡国際空港(株)、長崎空港ビルディング(株)、博多港開発・西部ガス共同事業体、那覇空港ビルディング(株)、逗子市民交流センター、(株)新橋スタンプ商会、(有)岩田時計店、AOKI、珈琲店ストーンズ

発行：認定NPO法人 日本ハビタット協会 (発行責任 篠原大作／編集責任 山本博子)

〒102-0092 東京都千代田区隼町2-12 藤和半蔵門コーポ103号 TEL / FAX : 03-3512-0355

E-mail : info@habitat.or.jp / URL : https://www.habitat.or.jp



HABITAT 日本ハビタット協会 まちづくり通信 No.47

日本ハビタット協会は、国連ハビタットと共に世界中の人々が安全で安心して暮らせるまちづくりを推進しています

自立を目指すケニアの女性たち

ケニアのホーマベイ郡の「生理環境改善プロジェクト」を実施しているコミュニティ及び学校を1月26日～2月2日に訪問しました。このプロジェクトは、経済的、社会的な理由から生理用品を手に入れられない女性たちの状況を改善すると共に、女性たちの自立を支援していくプロジェクトです。

訪問したどの村でも女性たちが毎週集まり、協力して布ナプキンや下着の製作、液体・固体石けん作り、バナナやカボチャ、ケールなどの農作物を生産し、販売していました。その活動の中で「自分や娘が布のナプキンを使えるようになった」、「手作りした下着が売れるので、子ども達の学費を支払い、娘に市販の生理用ナプキンを買うことができた」、「子どもの食事を今までより量を増やし、栄養のあるものにすることができた」、「少しづつ貯金をして裁しばさみや、せっけん作りのための秤を買うことができた」、「15,000シリングの足踏みミシンを買うために貯金をしており、これまでに8,000シリング貯めた」、「石けんを使うことで清潔な暮らしができる」等々この一年間の活動の成果を報告してくれました。

これまで家計管理や貯金の習慣がなかった女性たちが小さな努力を重ねることで、それぞの暮らし向上してきています。女性が中心となり始めた活動ですが、最近は男性も参加している村もあり、そこでは男性も布ナプキンと一緒に作っています。訪問した高校では、男子も女子も一緒に性教育を受けて女性の生理について学び、下着やナプキン製作を行っていました。

日本のボランティアの方々が作成した、洗濯や乾燥が容易な布ナプキンも持参し、大変喜ばれました。早速使用したようで、日本の人たちが作ったものに自分たちなりの工夫を加えようと考えているというレポートが先日届きました。

自己実現に向けて様々な努力を重ねている彼女たちのエネルギーに明るい未来を感じています。この事業の今後の展開がとても楽しみです。



みんなで一生懸命に下着を作っています。

・・・ ミャンマー大地震復興支援 ・・・

2025年3月26日にミャンマー中部のマンダレー付近を震源とするマグニチュード7.7の大きな地震が発生しました。国連ハビタットの報告によると700万人が被災し、4月3日の時点で死者は3,700人以上、負傷者は3,200人、行方不明者は70人に達しています。この地震により、病院や多くの住宅に加えて、道路、空港などの重要インフラが深刻な被害を受けたようです。



写真提供: WFP Myanmar

軍事政権下での災害で、支援が難しい状況ですが、国連ハビタット福岡本部は、ミャンマー事務所を中心に、人々の安全な暮らしにおいて重要な水と衛生環境の整備をはじめ、疲弊したコミュニティの復興に向けた支援事業を開始しています。日本ハビタット協会も国連ハビタットの事業に協力し、被災された方々の生命を守ることはもちろん、生活インフラや経済といった暮らしの基盤を支援し、希望あるコミュニティを復興させていきます。皆様からのご協力をお願い申し上げます。



ケニア・日本 生理環境改善による女性のエンパワメント

日本ハビタット協会は住民主体の持続可能なまちづくりにおいて「子どもと女性にやさしいまちづくり」を大切にしています。

● ケニアの少女と女性の自立を妨げる3つの問題



① 月経衛生対処 (Menstrual Hygiene Management)

大人の体へと成長していく女性と女児にとって公衆衛生上とても重要ですが、ケニアの農村部では、適切な月経衛生情報、製品、水へのアクセスが欠如し、また文化的社会的偏見や差別と相まって、ケニアの女性と少女の生理の貧困につながっています。



② 女性性器切除 (Female Genital Mutilation)

初潮は大人の女性へと成熟していく兆候と見なされ、ケニアの特定の地域では女の子がFGMにさらされています。女性の割礼とも呼ばれ、非医学的理由に基づいて女性の外性器の部分的または全てを切除することで、女性の人生に精神的肉体的苦痛を与え続けることになります。

③ 児童婚 (Child Marriage)

生理やFGM施術された少女は結婚持参金を目当てに結婚を強いられる場合があります。若年で結婚と出産することで、自身の才能やアイデンティティを探求する機会が失われ、また、ジェンダーに基づく暴力や搾取を受けやすくなります。

● 女性が自身の可能性を広げられるように

月経衛生対処に関する問題を解決し、女性たちが自由に羽ばたけるコミュニティづくりを目指し、生理環境改善プロジェクトを実施しています。2023年から小中学校2校及び1村を対象にしたパイロット事業を開始し、2024年からは小中学校4校及び15村に事業を拡大しました。

女性が適切な月経衛生対処が行えるよう、そして男性や社会に根付く生理や性への偏見をなくし、女性が自身の能力を開花できるコミュニティの土台の醸成に向けた取り組みを行っています。

● 性教育及び生理用品(布ナプキン、下着、石鹼)作成トレーニング

● 女性の所得向上(農業技術指導、家計簿導入、女性の収入管理強化)

● 啓発活動キャンペーン

● 家庭レベルの給水環境改善

● 変わり始める人々

小中学校

2024年7月から6ヶ月間毎週一回性教育を含む健康教育が行われるようになり、男女が一緒になってそれぞれの身体の仕組みや女性の生理などについて学びました。また、生徒達は校内菜園でかぼちゃやケールを育て、衛生用品づくりにも取り組むようになりました。それらを学校が買い上げることで、女子生徒はそのお金で市販の生理用ナプキンを買えるようになりました。

村と女性グループ

正しい月経衛生対処の理解が深まるだけでなく、手作り生理用品や野菜栽培の技術習得も進みました。収入向上により市販の生理用品を購入できるようになっただけでなく、足踏みミシンの購入に向けた貯蓄など、女性グループでお金を管理するようになりました。足踏みミシンにより、もっと多くの生理用品の制作と販売が行われ、女性が個々の状況に合わせた月経衛生対処ができるようになると期待されます。

男女相互理解

「月経衛生の日」や「国際ガールズ・デー」などに合わせて啓発活動キャンペーンを開催し、毎回300名を超える住民が参加しました。ケニアの男性は、これまで生理をはじめ女性の身体について学ぶ機会がありませんでした。そのため、女性がどのような負担を強いられているのか、またどのようなサポートを必要としているのかを知ることができましたが、イベントを通して、少しずつ理解が深まり、意識が変わり始めました。

● 日本とケニアの女性がつながる

ケニアの女性たちが抱える生理の課題と似たような課題が日本にも内在しています。ケニアの現状を知ることで、日本での生理問題解決について考えるきっかけになればと願っています。また、学校や企業での講演やワークショップで参加者からあがった意見やアイデアを現地の活動に反映したり、日本でのさまざまな取り組みをケニアに知らせていくことで、日本とケニアが互いにつながり合いながら励まし合いながら女性にとってより良い社会を作っていくたいと思います。



好みの柄を選んで下着制作!
女性の意識向上にも役立っています。



高校での布ナプキンづくりワークショップ



ラオス コミュニティベースでのゴミ処理システムの構築

ラオス北部ルアンパバーンは、町全体が世界遺産に登録されていて、毎年多くの旅行者が訪れます。2021年12月にラオス中国鉄道が開業してからは、隣国の中国やタイからだけでなくラオス国内からの旅行者が激増しました。

観光都市として発展する中ごみ問題が深刻化しており、大規模なインフラ整備による解決もありますが、ラオスの行政システムや経済情勢を踏まえると、コミュニティベースでのゴミ分別とリサイクルを進めることが有効だと考え、下記の活動に取り組みました。



① 住民のゴミ分別意識向上と実践技術の習得

② ゴミ分別ステーションの設置

③ 啓発ポスターの配布

④ ゴミ分別による収入向上と活動の持続



積極的にゴミの分別活動に参加する子どもたち



住民によるゴミ分別ステーションの管理



生ごみコンポストで作った堆肥を菜園で活用

● ゴミ分別習慣の定着

ワークショップを通してゴミ分別方法だけでなく、生ごみからのコンポスト生産、校内菜園などの実践技術を学んだことで、学校と村に設置したゴミ分別ステーションを活用して適切なゴミ分別が行われるようになりました。

● 分別による収入向上と活動の持続

仕分けたりリサイクルごみを販売することで、村で月3,200円、学校で月2,000円の収入につながり、また、学校ではこれまでごみ回収業者に月3,000円の回収費用を支払っていましたが、分別によって一般ごみの量が減ったことで、なんと500円まで減らせるようになりました。

● 人々の意識が変わる

ゴミは正しく分別し活用すれば、環境だけでなく自分の暮らしにも恩恵をもたらすことを実感できたことで、次世代を担う子ども達はもちろん大人達の意識も着実に変わりました。

能登半島地震・豪雨災害支援事業

当協会は、これまで被災者ニーズに合わせた物資支援をはじめ、輪島大祭と

いた伝統芸能・文化の復興支援、子どもの居場所づくりなどを行ってきました。

2025年4月13日に石川県内の全ての避難所が閉鎖されましたが、未だ多くの方が

仮設住宅や広域避難での暮らしを強いられている状況で、住宅や暮らしの再建に

は長い道のりとなりそうです。また、奥能登地域の4つの市と町では能登半島地震

の発生から1年半で人口が11.2%減少したそうです。

現在、子どもの生活・教育環境の改善に焦点をあて、輪島市内の保育園や幼稚

園、小中学校を対象に支援活動を行っています。かわい保育園には屋外用テーブ

ルを贈りました。昨年の豪雨災害の時に園庭に泥水が入り砂場で使用していた

テーブルがダメなってしまったそうです。砂場にテーブルがあると、遊びが広がり子

ども同士の関わりも多くなるそうで、元気いっぱいに遊んでくれたらと願っています。

また、6月4日の「むし歯予防デー」に合わせて乳幼児用歯ブラシを届けました。

